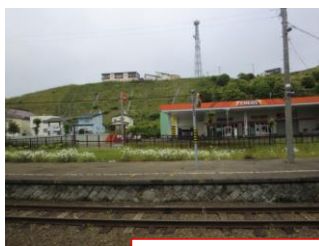
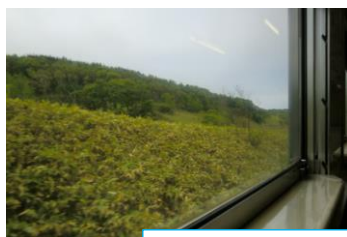


を考えていたが、急遽踏破に方針変更する。



南稚内駅



南稚内界隈の原野



天塩川 糠南駅



佐久駅



佐久駅



藤田旅館

7時58分、佐久駅前をデジカメに収め、天塩中川駅に向かう。駅舎には「ふるさと伝承館」と記した看板があった。駅前には、今休業中の藤田旅館があった。この旅館に泊まる予定で当初プランを考えたが、今休業中との電話での回答で、今回のようなプランに変更する。8時7分、十字路で問寒別24km、中川7kmの道路標識を目にする。



駅前の分岐点



琴平橋

本日は、天塩川に沿って歩くコース。9時23分、サコダー川を渡る。8時27分、第1問寒別佐久停車場踏切を横切り、鉄道の右側となる。本日は荷物を背負っての歩きのため、ウォーキングだけでの対応。8時33分、上り列車の音を聞き安堵する。8時47分、水色の47歩ある古市橋（古市川）を渡る。9時5分、第2寒別踏切佐久停車場踏切を横切り、鉄道の左側を歩く。トラックの往来が激しくなる。9時12分、道路工事の事務所前（臨時）を通過。9時17分、80歩ある琴平橋を通過。それにしても、佐久駅から天塩中川駅の区間、道路工事の作業員やトラックが多いのにはビックリ。9時38分、541号線と記した標識に16km地点を通過。



天塩中川駅

9時35分、通り抜けられると思い、青空団地に入る。しかし、袋小路となる。幹線道路541号に戻る。10時2分、118歩ある銅蘭橋（銅蘭川）を渡る。10時6分、北星しんきんがあった。10時12分、天塩中川駅に到着。この駅の界限には、セイコーマート、タイムリー、生協、そして旅館もあり賑やかであった。歩道にはフクロウやニワトリの絵が描かれていた。10時30分、中川町立中央小学校前を通過。十人位の小学生が、鉄棒で逆上がり等の練習をしていた。この小学校の標語を感動したためメモする。「深く考え／たくましく前進する子」と。



市内



中川町立中央小学校

10時55分、109歩ある国一橋（パンケナイ川）を渡る。11時5分、郵便自動車が私を追い越して行く。11時18分、111歩あるパンケ橋（パンケナイ川）を渡る。11時27分、541号線の10km地点に到達する。11時32分、下りの特急が通過して行く。11時48分、138歩あるくんねり橋（クンネシリ川）を通過。11時53分、上着を脱ぐ。12時15分、541号線7km地点を通過。12時36分、列車を改造した駅舎の歌内駅があった。ここから、問寒別駅

まで5.5km、何とか14時42分の電車に間に合せようと時間との闘いが始まる、当初の予定では17時17分を。



歌内駅への路 歌内駅

12時45分、右手に白い鳥居があり。12時54分、T路地に達し右側を。ここから山間となる。熊除けに笛を吹きながら進む。歩きの場合、鈴では弱いからだ。13時4分、57歩あるオレンジ色の宇戸内橋（宇戸内川）を渡る。13時17分、中川町から幌延町へ。丁度541号線の3km地点であった。13時48分、1km地点に到達。その先でやっと民家が見えて来る。14時2分、木々の中で音がした。熊かと思ったら鹿であった。慌てて一目散で逃げて行く。鹿でよかった。もし、熊であれば・・・。「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺を思い出しす瞬間であった。間もなく歩くとT路地にぶつかり、左折し1km位歩いた先に問寒別駅があった。途中、トラクターに乗った人が私を追い越して行く。14時11分、47歩ある愛冠上橋（大塚の沢川）を越える。



中川町から幌延町へ



笛を吹きながら進む

その先に問寒別駅（14時17分）があった。駅舎は歌内駅と同様、列車を改造してたものであった。この駅で遅い昼食を摂ると同時に、駅に備え付けのノートに、今回の歩きに関する記事を記載する。加えて、カッシー館のPRも。そして、14時42分の列車で問寒別駅へ、運賃は930円要する。松屋旅館には16時16分到着。2階の粗末な部屋（松の間）であったが、アットホームのする旅館。料金は2泊で9,860円（晩飯付）。一番の到着であったので、一番風呂に入らせて頂く。18時頃、食堂で夕食をいただく。家庭の味のする手料理であった。部屋に帰り、晩酌。本日の営業キロは、22.2km、万歩計は46,917歩であった。今日も予定通りクリアでき、充実した一日であった。



問寒別駅



豊富駅 松屋旅館

第7節 6日目：6月25日（木）曇り／雨

3時頃起床。昨夜セイコーマートで買ったパン等で朝食を摂り、作戦を練る。本日のポイントは、糠南駅の踏破から雄信内駅までの行程、そして幌延駅から下沼駅の山間の踏破。体調を整え、ジョギングウェアで旅館を6時半頃出る。始発列車の6時49分まで時間があつたので、駅舎等を種々のアングルから記念写真。この駅は、現在は無人駅であつた。問寒別駅まで運賃(整理券)は930円要す。雄信内から糠南に向け、天塩川沿いを道なき道を走る。途中トンネルもあつた。正に天然の要塞であつた。7時32分、問寒別駅に到着。



豊富駅 問寒別駅

7時41分、問寒別郵便局前を通過。7時43分、幌延町立問寒別小学校前・中学校前を通過。7時45分、北大天塩研究林前を通過。橋の辺りで、この界隈の年配の女性と対面。糠南駅を尋ねても正確な回答を得られなかつた。「山越えがあるから」が印象に残つた。7時

49分、185歩ある赤い問寒別橋（問寒別川）を渡る。7時52分、畑総農道を歩く。8時2分、新糠南橋（ヌカナン川）を渡る。その先に十字路となり、左折した先に糠南駅（8時10分）があった。



天塩研究林 赤橋



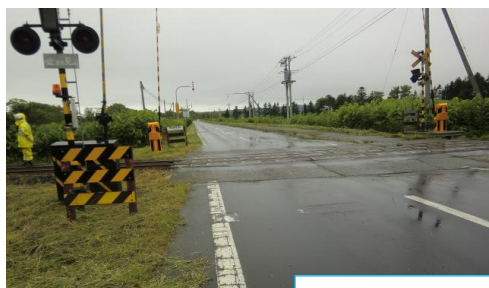
糠南駅

糠南駅付近で工事をしていた。駅は中間寒別糠南線踏切を渡った先にあった。この駅は踏破できないと当初考えていたので、鬼の首でも取ったような心境で駅周辺を種々のアングルからデジカメに収める。8時14分の上りの特急電車通過を記念写真に収めてこの駅を後にする。工事担当者によると、糠南の山間は熊の出没があるとのことであった。この駅を出る際、熊除け鈴をロストしているのに気付く。それ故、鈴を探すため、再度問寒別駅まで引き返すことにする。しかし、残念ながら見当たらず。Ipodと同様、どこで紛失したかは全く不明。再び問寒別駅には8時36分到着。雄信内に向かう交差点には8時40分着。8時43分、問寒別停車場踏切を横切る。鉄道の右となるが、暫くは鉄道に垂直に走る。途中小雨が気になり、ショルダーバックにビニールをかける。



中間寒別糠南線踏切で特急電車を見守る 再度問寒別駅へ

8時46分、平成橋を渡る。途中、車に轢かれてまもない狐か狸かの姿を見かける。9時7分、408歩ある新間寒別大橋（天塩川）を渡る。9時15分、139歩ある新国根府橋（赤橋）を渡る。9時22分、国道40号線に出る。交差点のところに、北大天塩研究所の看板（4km先）があった。9時32分、辰子丑を通過。9時53分、78歩ある弁慶橋（天塩川支流）を通過。この弁慶橋は昨年歩いた砂川界限でもあったような気がする。10時10分、750mある雄信内トンネル（1,243歩）を通過。10時18分、国道40号線に別れを告げ、豊富遠別線を。道路標識で豊富34km、幌延17kmとあった。10時24分、902歩ある空色の雄信内大橋（天塩川）を渡る。山間から鶯谷の鳴き声が。橋を渡り、幹線道路を500m行った先に雄信内駅があった。駅前には民家はなし。寂しい感じの駅前であった。この先は、山間と天塩川で行き止まりであった。



間寒別停車場踏切 雄信内トンネル



雄信内大橋

雄信内駅

10時43分、再度先程の交差点に戻る。10時46分、第2豊富遠別線踏切を横切り、鉄道の右側を。10時55分、雨が本降りとなり傘をさす。11時13分、開進2号線踏切を横切り、鉄道の左側となる。11時41分、沼があった。11時50分、豊富27km、幌延10kmの道路標識前を。傘と路面が滑りやすくなっている関係で、ジョギングは時々であった。11時57分、目測を誤って井上農場踏切前まで来るが、駅舎の姿はなかったので聞き返す。



風除け柵

安牛駅

やっとのことで、12時12分、古びた列車を再利用した安牛駅に到着。12時36分、目黒橋を渡る。雨で集中力をかく。12時46分、駅舎のない南幌延駅に到着。13時、雨の中、3頭の乳牛を見かける。遠くにロール、近くには沼があった。13時20分、安牛駅と同じタイプの駅舎である上幌延駅に到着。この駅舎で、休憩と雨宿りをかね、遅い昼食とする。この駅舎で10分位休息し、4.9km先の幌延駅を目指す。



南幌延駅 雨の中の牛



上幌延駅

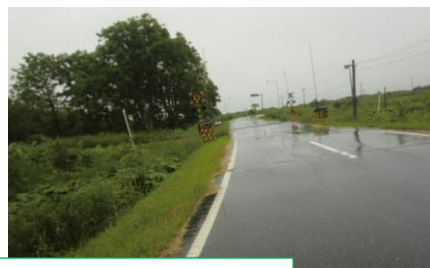


メモ帳と地図は雨でぼろぼろ。それ故、メモ記載にも相当の負荷を要す。13時30分、法華橋を渡る。13時38分、45歩ある上幌延橋（バンケオポッペ川）を渡る。14時6分、北緯45度地点を通過。この界限には赤道と北極の真ん中を示す“北緯45度”のPRが多々あった。14時32分、50歩ある幌延橋を渡る。14時39分、第2幌延こもい線踏切を横切り、鉄道の右側となる。14時45分、雨の中、幌延駅に到着。雨で集中力を相当欠いていたが、駅前には、中川駅よりは賑やかな感じであった。この駅には駅長がいた。この駅でメモ帳と地図を雨よけにビニール袋の中に格納する。

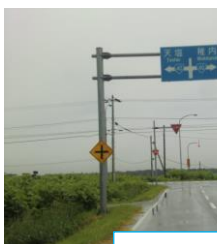


上幌延橋 幌延駅

ここから、悪天候の中、7.8 km先の下沼駅、更には16.5 km先の豊富までの踏破に挑戦する。雨の中なので、傘をさす関係で思うようなジョギングができない。それ故、これからの道のりは速足での対応が軸となろう。15時23分、左手に牧場にいる沢山の牛を見つける。山間の路筋笛を吹きながら進む。怖さをふっ飛ばすためである。16時13分、下沼道踏切を越え、鉄道の左側となる。もうすぐ行くと国道40号線にぶつかる。ここで本来なら直進すべきところを、誤って国道に出たため、下沼駅が未踏破となる。敗因は雨で地図を点検できなかったことが大きい。16時22分、誤って国道40号線に合流する。16時30分、下沼跨線橋を渡り鉄道の右側となる。16時40分、稚内49 km、豊富10 km地点に到達。



幌延の街並み 笛を吹きながら進む



やっと国道に合流

下沼駅界限

16時53分、赤い鳥居の温内神社があった。恐らくこの辺りに下沼駅があったのだろう。しかし、国道からは下沼駅への道筋はなかった。次の交差点を曲がってみたが、駅舎らしき姿はなかった。国道に戻り、道路工事の警備員の方に問い合わせる。「私はこの地は不案内でわかりませんが、道路下沼駅1 kmの看板があります」と。看板は何かの不可抗力で反対に向いていた。その助言を聞いて、10分位ジョギングして引き返す。途中、下沼駅のような駅看板が微かに見えたが、駅に下りる道はなし。それ故、諦めて再度戻る。15分位ロスする。17時29分、浅見橋を渡る。18時、豊富町に入る。豊富市街まで4 kmとの道路標識がある。18時47分、67歩ある豊富橋を通過。やっとのことで、豊富駅には19時6分到着。旅館には19時10分到着。食事を済ませ、風呂に入り、セイコーマート(896円)で明日の朝食と昼食買い就寝。本日の営業キロは40.1 km、万歩計は84,015歩であった。雨の中ではあったが、当初の予定をクリアでき充実した一日を送ることができた。天や神に感謝あるのみ。



豊富橋



豊富駅



松屋旅館



第8節 7日目：6月26日（金）曇り／晴れ

3時半頃起床。昨夜買って来たパン等で朝食。そして、本日のコースを勉強する。昨夜の歩きでぎぶねれの靴を親切にもご主人か女将さんのいずれが古新聞を入れて乾かしてくれていた。感謝あるのみ。それ故、ドライアを当てずにすむ。体調を整えて、松屋旅館のご主人と奥様にお礼の挨拶をして、この旅館を後にする。昨夜頂いたタオルが思い出の品になろう。昨日と同様、豊富駅発6時49分の列車で佐久駅まで移動する。運賃は1,270円要する。昨日、下沼駅をクリアできなかったのも、この駅舎を車窓から撮る。駅舎は歌内や安牛駅のような列車改造の駅舎であった。



豊富駅



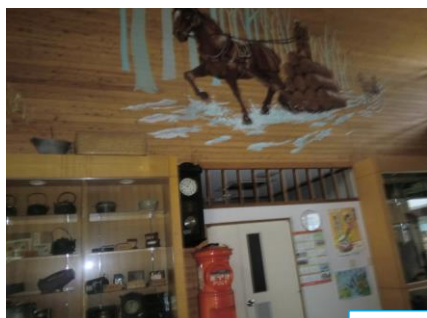
下沼駅

豊富からは幌延まで3日間、同じ電車になった高校生数人がいた。この高校生は、幌延駅で下車する。その後は乗客が私を含め2人きりとなる。雄信内駅で上り・下りの列車が離合

する。リュックを背負った男性の乗客も問寒別駅で下車。問寒別から佐久まで私一人となる。私が下車した佐久で2人の女性客が乗ってくる。佐久駅には7時54分到着。佐久駅舎内をデジカメに収める。今は無人駅ではあるが、由緒ある感じの駅舎であったので、かつては駅長もいたのであろう。数分この駅に立ち止り、種々のアングルから記念写真。一昨日と反対方面に進む。



車両内



佐久駅

8時8分、383歩ある佐久橋（天塩川）を横切り、国道40号線（8時12分）に出る。8時18分、旭川152km、名寄75km、音威子府23kmの道路標識前を通過。8時26分、中川町富和通過。8時41分、旭川150km地点に。この近郊で、道路に横たわっていたカタツムリを拾い上げる。このカタツムリが道中の友となる。



Ipodをロストしたが、このカタツムリが癒してくれる。このカタツムリは、自宅まで大切に持ち帰り、自宅内の紫陽花の上に放してあげる。薄日となる。9時37分、旭川146km地点に到達。トンネル（富和覆道）がその先にあった。少し行った先に全長955mの富和トンネル（1,689歩）があった。10時4分、トンネルを出ると薄曇りとなる。バッグから高校

同窓の門口先輩から頂いた黄色い雨具を外す。この雨具は何度か大変お世話になっている。
 10時12分、中川町神路（かみし）を通過。直ぐ先に旭川まで144km地点があった。10時32分、道路工事あり。10時48分、落石除けのトンネルを括る。



富和トンネル 天塩川



音威子府村 箴島

11時3分、140km地点を通過。走ったり歩きながら進む。荷物を持つとジョギングは厳しいものがある。それにしても、箴島（おさしま）までの18kmは長く感じた。歩いても歩いても着かない。左手には天塩川が依然と続く。11時30分、旭川139km、名寄61km、音威子府10km地点に到達。11時33分、36歩ある岡穂内橋（オカホナイ川）を渡る。ここから中川町から音威子府村に入る。11時39分、箴島の地名前を通過。11時43分、岡穂内覆道。200mあけて物満内覆道があった。この近郊で自転車野郎と対面する。



箴島大橋

11時12分、天塩川向う岸の山間から下り列車通過の音をする。11時18分、「ピッタン」という鳥の鳴き声を耳にする。12時17分、北海道命名の地と記した看板の入口があった。

12時23分、110歩ある鬼差辺橋（鬼差辺川）を渡る。12時33分、やっとのことで、449歩ある箴島大橋を渡る。12時44分、安牛駅のような列車改造の箴島駅には12時44分到着。駅前の近郊にはまばらではあるが、数十軒の民家の集落が天塩川に沿って広がっていた。佐久と箴島の18km区間には1軒も民家はなかった。12時57分、箴島大橋まで戻り、音威子府駅を目指す。



箴島駅



箴島駅界限 箴島大橋

13時7分、橋をわたると、旭川134km。名寄57km。音威子府市街5km地点に到達。13時23分、163歩ある物満内（ものもない）橋（物満内川）を渡る。この辺りからトラック多し。13時32分、係り員の方に誘導してもらい道路を通り抜ける。この係員の方は、名寄出身とのものであった。「この道路には人は殆ど通らない。名寄近郊でも熊が出ることもありますので。頑張って下さい」とのコメントを頂く。



音威子府市街まで5km地点

13時54分、130km地点に到達。14時12分、587歩ある音威子府橋を渡る。風冷たし。14時19分、T路地交差点に休憩場がある。ここから市街地に入る。14時23分、コンビニ千見

寿で水分補給。山小屋風のユニークな駅舎の音威子府駅には 14 時 26 分到着。この村は北海道はおろか日本で最も小さい村とのことであるが、何か特色そして光るものを強く感じる印象深い村であった。これからも独自性を発揮し頑張ってもらいたいものだ。14時31分、北星しんきんがあった。音威子府郵便局もあった。14時36分、音威子府小中学校前を通過。14時38分、音威子府高等学校前の看板を通過。14時42分、音威子府村100年記念塔碑前通過。14時44分、これまで稚内や豊富等で見かけたセイコーマートがあった。



道の駅

千見寿



音威子府駅



音威子府小中学校

14時48分、音威子府跨線橋を渡り、鉄道の左側となる。14時55分、ジョギング姿の若者（高校生か）二人と対面。挨拶をされる。15時33分、踏切を横切り、400m位戻る。その先に咲来（さっくる）駅があった。15時43分到着。分りにくいところにあった。15時43分、先程の踏切（歌登咲来停車場線）のところに戻る。上りの特急電車が通過して行く。ここから天塩川温泉駅で止めにするか予定通り豊清水駅まで歩くか迷うが。用心して天塩川温泉駅で上がりとする。16時、名寄45km、美深26kmの道路標識前を通過。16時13分、弁慶橋を通過。16時28分、天塩川温泉の看板先で国道40号線を右折し、幹線道路に入る。

15線踏切を横切った先に天塩川温泉駅（16時45分）があった。この駅舎で遅い昼食を摂る。旭川行きの列車は17時32分であった。名寄まで運賃は930円だった。



咲来駅



歌登咲来停車場線



咲来駅への交差点

18時45分、ニュー富士屋ホテルに到着。部屋は211号室であった。宿泊料は本日と明日分を合わせて10,400円だった。何となく我が家に戻ったような心境になる。駅前の三星食堂で野菜炒め定食で夕食。ホテルの界隈のローソンで黒霧島のボトル等(1,888円)を買い、ホテルで晩酌。本日の営業キロは32.1km、万歩計は60,011歩であった。それにしても佐久～箴島の18kmは長かった。本日も充実した一日であった。後は、明日天塩川温泉～名寄までの45.3kmのこのシリーズの総仕上げとしての挑戦だ。うきうきした気分と不安を一杯抱えて就寝する。



天塩川温泉



天塩川温泉駅